



## トピックス 3月17日江戸川区教室交流会に参加しましょう

区内の楊名時太極拳教室15教室のの皆さんが集まって交流する標記の会が下記の通り開催されます。

日時；3月17日（日） 午前10時から12時まで

場所；北葛西コミュニティ会館

服装；自由 履物；上履きあるいは裸足（床はフローリングです）

参加費；無料、ただし参加教室ごとに1000円徴収。

この会も今回で第7回を迎えます。今回も多数ご参加くださるようお願いいたします。

## 早朝太極拳の会で研修会と懇親会開催

江戸川区の清新南ハイツの老人会組織である『くすのき清新南ハイツプロバンス会』の活動の一環である「早朝太極拳の会」（指導；茶木登茂一）では、年度末の2月23日に研修会を兼ねて懇親会を開催しました。当日は20名が参加して、小生の用意した『二十四式太極拳の覚え方』と言う資料に基づいて、覚え方のコツを勉強していただきました。終わったあとは、サンドイッチとビールやワインでの昼食会に移り、楽しく懇談しました。この会も発足以来早くも8年を過ぎましたが、おかげさまで皆さんに楽しんでもらって順調に発展しております。



## 「いのち・心・からだ」勉強会中止

標記の会は都合により中止いたしました、お申込みいただいた方にはすでにご連絡済みですが、謹んでお詫び申し上げます。このテーマについてはいずれ、機会を作って勉強会が開ければと思っています。

## 閑人閑話 川崎大師と川崎宿を訪ねて

以前から一度は行きたいと思っていた川崎大師（真言宗平間寺へいけんじ）に2月中旬の某日行ってきました。京急川崎駅から大師線で3駅目の「川崎大師駅」が最寄駅。くず餅やのど飴などの名物を売る店が左右に並ぶ仲見世通り【右写真】もなかなかの風情、そして賑わいです。





ご本尊の弘法大師像を祀る大本堂はもとより、たいへん珍しい八角の五重塔【左写真】（東日本では信州上田の安楽寺の国宝三重塔が唯一です）、あるいは、経蔵、黄金の釈迦如来の露座の坐像、ヒンズー教の寺院かとも思わせる白亜の薬師堂【下右写真】、などなど さすが関東一の厄除け大師と言われる大伽藍です。おりしも、お護摩（護摩焚き）が始まったところでしたが、ここは深川不動とは違って、一般の参詣者は本堂には上がれず、ちょっと残念でした。

ただ、信徒会館や信徒休憩所、あるいはトイレも立派な大規模なものが数か所あり、そのあたりは浅草の観音様よりも完備しているなど思いました。また、境内には芭蕉、虚子、正岡子規の句碑をはじめ立派な石碑

がたくさんあるのにも驚きました。

昔平間某がお告げで海から引き揚げた弘法大師像を祀ったのが、この寺の由来と言うことで、このあたりは浅草寺の由来と酷似しています。ともあれ、江戸時代以降たいへんに尊崇を集めて今日に至っているわけで、やはり、真言密教の勢いというものを改めて感じさせられたお寺でした。



終わって、また大師線の電車に乗ったのですが、途中の港町駅のホームに大きく「港町十三番地」の五線譜が掲げられているのを発見しました、あとで調べて見たら、この駅前に美空ひばりが所属したコロンビアの本社と工場があった（その頃の駅名は「コロンビア前駅」だったそうです）ところから、のちにこの歌の発祥の地とされて、同駅前には歌碑も建てられているそうです。

川崎駅からほど近いところに旧東海道が通っていますので、ゆかりの場所がいろいろと再現されたり保護されたりしているようですが、その一つ、5年前に開館したという「東海道かわさき宿交流館」【右写真】も小規模ながら、当時の川崎宿や六郷の渡しの様子や、その後の川崎の町の変遷など、なかなか面白い展示が見られました。同館で頂いた「川崎餃子マップ」を頼りに老舗の「天竜餃子店」を探して、焼餃子300円、らーめん450円、日本酒1合320円、すべて税込1070円の豪華昼食で、この日の散策を締めくくりました。



**旅をうたい拳を詠む 川崎大師を詠う**

熱々の酒まんじゅうを買い食いし寒さの中を川崎大師へ  
 仲見世の店であれこれ試食するお大師参りの邪道な楽しみ  
 寒空を揺るがせるごと大太鼓響きて護摩焚き佳境に入る  
 虚子や子規芭蕉の句碑もそこここに境内ひろき川崎大師は  
 ヒンズーの寺かと思える薬師堂白亜の塔に輝く法輪  
 金色の釈迦の坐像は露座にあり少し寒げに眉顰めゐる

## 左顧右眄 第22話 『太極拳とは何か(再編集・再掲版)』(第10回)

～趙匡胤の「探馬勢」から太極拳の「高探馬」にいたる軌跡をたどる～

### 2.1 簡化二十四式太極拳の誕生

1911年の辛亥革命以降の長い戦乱と政治的混乱の時代に終止符を打って、1949年10月に中華人民共和国が誕生しました。毛沢東主席は「発展体育運動・増強人民体質」と言う国家スローガンを掲げて、革命思想に基づく、人民のためのスポーツ、人民のための健康法の開発を、周恩来首相の率いる人民政府に指示しました。

この指示に基づいて、国家体育委員会が1956年に制定したのが、「簡化二十四式太極拳」です。当初、各流派の太極拳を融合させたような試案があったのですが、認められず、結局は楊式太極拳をベースとしたものとなりました。

制定責任者の李天驥先生【右写真】によると、『1930年に楊澄甫が作った「新架式81式套路」に基づいて、その中から目的にあった、つまり誰にでも、たとえ病弱者であっても、習得、運用できる、比較的易しい技を選んで、その順番にも配慮して24式の套路とした。そのため、型は中正姿勢を基本に、動作はおおらかで伸びのあるものとし、歩法は軽やかで、手法は簡素である。』が特徴と仰います。『所要時間は5～6分として、仕事前でも休憩時間にでも簡単に出来るように配慮した。また集団練習及び独習を容易にするため、連続動作で表した掛図などの教材が用意され、またあわせて従来の太極拳に対する神秘性、保守主義、セクト主義も排除できるようにした。』とも述べておられます。(つまり、易経に基づく理念などは、まったく認められなかったということです。道教など迷信的な宗教も否定され、迫害された時代です。)



### 2.2 太極拳のその後の展開

「簡化二十四式太極拳」は、共産党の力で、またたくうちに中国全土に広まりました。当時、国家体育委員会は、全国から10万人を北京に集めて講習を受けさせ、また100万枚の掛図を用意したといわれています。(楊名時先生が1958年ごろ入手されたのもこの掛図でした。)

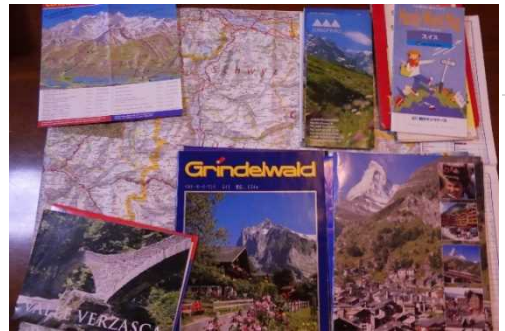
しかし、その後、中国内部では、反右派闘争とか、文化大革命とか、政治的に厳しい、また混乱した時代が続きました。李天驥先生ら幹部が地方に下放され、国家体育委員会主任(大臣)の賀龍(1896～1969)が紅衛兵に捕まり獄死するなど、体育関係者にとってはたいへん苦難な時代だったようです。

1977年によく文化大革命が終焉し、鄧小平による改革開放路線への転換により、中国における、武術や太極拳なども新しい次元へと発展するようになりました。1980年代に入ると、いわゆる武術の試合(散手)が許されるようになり、長らく息をひそめていた、あるいは途絶えていた昔の武術なども復活しました。

太極拳でいえば、同様に伝統的な太極拳の復活が許されるとともに、(道教などに対する締め付けも緩んだわけです。)「競技太極拳」の分野が飛躍的に発展しました。現在中国政府はこの「競技太極拳」をオリンピックの正式種目とすべく着々と準備を進めていますし、全世界で、その受け皿となる「中国武術連盟」の組織化を着実に進めております。日本でいえば、公益財団法人「日本武術太極拳連盟」がそれに相当します。

## 一品・一葉・一会 第10回 1997年～ スイスの思い出

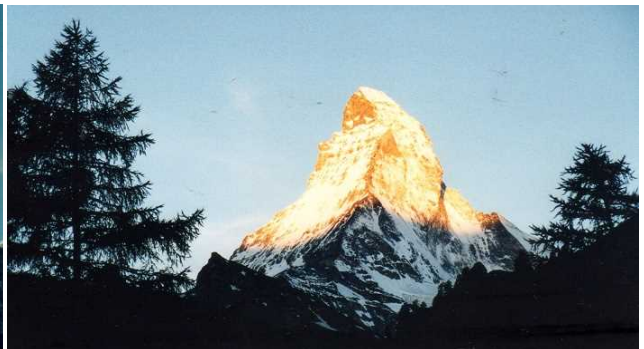
1972年に出張でバーゼルとチューリッヒなどを回ったのが、初めてのスイスでした。いつかは、個人的にゆっくり山を歩きたいとの念願がかなったのが、1997年7月の団体ツアー。モンブラン、マッターホルン、アイガー、ユングフラウなどの名峰を巡り大いに感激。次いで2002年8月には二人だけの個人ツアーで、グリンデルワルド（6泊）、シャモニー（4泊）などに滞在して気ままにトレッキングを楽しみました。それから2003年7月にはイタリア、スイス、オーストリー、ドイツを巡るツアーにも出かけましたが、今になってみると、手元に残ってるのは、観光パンフレットや地図（上写真）と自分で撮った写真、あるいはその時々詠んだ短歌だけですが、これらが何よりの思い出の品となっています。



雲上がるユングフラウ



夜明けのマッターホルン



氷河を抱くベルニナ連山



アイガー（左）とメンヒ（右）



### スイスを詠った歌の幾つか

ゆるゆると雲の衣を脱ぎ払いまばゆく立てり若き乙女（ユングフラウ）は  
鎮魂の礼砲のごとこだませアイガー氷河またも崩れる  
真青なる空を圧してモンブラン白きドームは指呼の間にあり  
風は秋スーツケースに腰かけて乗換を待つ国境の駅（スイスフランス国境）  
氷河へとヤナギラン咲く谷の道パカポコパカと馬車にゆられて（ベルニナ連山）  
犬も乗せ自転車も乗せ夢も乗せ登山電車はアルプを登る  
窓と言う窓のすべてを花で飾り山に手向けるシャモニーの街